

## 新しい学びの形が示す未来とは 日本コスモトピアが自立学習学会を開催

9月6日、株式会社日本コスモトピア主催の『自立学習学会2015』が、新宿ファーストウエスト(東京都新宿区)で行われた。これからの「学び」の形を模索する試みだけでなく、「プロボノ」についての講演など教育と社会を結びつけた新しい試みもあり、ユニークなイベントであった。

### 教育界一体となった取り組みを

同社代表取締役社長の下向峰子氏は、開会の挨拶で、「自立学習を20年前から提唱してきました。最初はなかなか理解してもらえませんでした。今は、自立学習という言葉を目にしない日はありません。やっと身になってきました」と語った。

最初に行われたのは、「地域で未来の教育を創造する」学校、私塾、生涯学習教室、地域、それぞれが関わる方法とは?」と題したパネルディスカッション。

パネリストに、福本靖氏(神戸市立本多間中学校校長)、長谷川陽子氏(情報アナリスト、しまねSOHO協議会会長)、八木紀明氏(ケアイエス株式会社代表取締役社長)、そして下向氏の4人と、モデレーターに、玉置崇氏(岐阜聖徳学園大学教育学部教授)を迎え、自立学習の現場に立つそれぞれ意見が交わしながら活発な議論が繰り広げられた。

「授業以外は家庭学習だ」とらえ、現在起こっている学習格差がさらに広がる、学校だけでは対処が難しい」と福本氏。

長谷川氏は、「課題設定は、生徒たちのポテンシャルによって変わり、ファシリ

テートはどうするのかが大変なことになる」と言い、「塾に期待している。子供たちが通う地域の塾の存在はすごく大きい」と続けた。

八木氏は、「例えば、高齢者の方は趣味を持っている。それを発表できるコミュニティを作るなど、居場所をはやく作ってあげるかが重要」と自身が関わる高齢者向けパソコン教室を例に出して意見を述べた。

下向氏は、「学校でできる範囲、子供の能力、家庭環境がまずある。その次のステップを学習塾が担っていたきたい」と語った。

登壇者の口々から学校、私塾、生涯学習教室、地域が一体となることの必要性が語られた。



### 企業とNPOの協働を推進

次に、「社会との新しい関わり方とは?」プロボノで社会に貢献する」と題された講演を、フリーファンドライザーの小川宏氏が行った。

フリーファンドライザーとは、寄付金を募るなどして、企業とNPOの協働を推進し、NPOを支援する仕事。また、プロボノとは、「公共善のために」を意味

するラテン語の「pro bono publico」から取った略称であり、ボランティアの一形態のことを言う。しかし、一般的なボランティアと違い、各分野の専門家が持っている専門性、スキルを提供するのが特徴だ。

例えば、法人営業のスキル・経験を生かして企業と交渉し、NPOに寄付金をもたらすことや、寄付金付き商品販売の開発などを行うなど、企業とNPOの橋渡しの役割も担う。そして小川氏は、プロボノの存在価値を次のように述べる。

プロボノは、「充実感、達成感、自己成長につながる。スキルや専門性が磨かれて、仕事へのシナジー効果が期待できる」。NPOは、「経費をかけずに、プロボノという外部の有効なリソースを活用できる」。企業は、「プロボノで成長し、リフレッシュした従業員がシナジー効果を発揮する」。社会は、「プロ



フリーファンドライザーの小川宏氏

ボノというプレーヤーが増えるので、社会での解決が促進される」。会社によっては、プロボノとしての活動を勤務時間内に行うことを許可している場合もあり注目されている。

また、コスモトピアはこの日、新たな取り組みとして『二般社団法人 自立学習推進協会』の設立を発表した。

この協会は、経済格差がそのまま教育格差となっている中、子供たちに自己表現の力をつけてもらうために設立。プレゼンテーションスキルを核に、子供たちにグローバルに活躍できるように自己表現力を身に付けてもらい、ひいては学力向上に繋げるのがその主旨である。

### 子供たちの豊かな感性

日本コスモトピアが主催した『第4回わくわく文庫読書感想文コンクール』授賞式も行われた。

わくわく文庫とは、プロのナレーターが朗読を聞きながら本を読み進めていく読書支援教材。朗読速度も調整でき、速く朗読することによって、本を読む能力、日常会話の力を身につけられるというもの。この読書感想文コンクールは、読書推進のきっかけとなることを目的としている。

また、2014年から国際NGO「ルーム・トゥ・リード・ジャパン」と連携し、子供たちがわくわく文庫で本を読むと、日本コスモトピアからルーム・トゥ・リード・ジャパンを通じて、世界の諸国へ本を届ける取り組みも行っている。

例えば、バン格拉ディッシュとラオスに図書室が2



読書感想文の審査委員長を務めた小説家の志茂田景樹氏



620作品の中から見事大賞に選ばれた宮崎璃紗さん

室と、現地語の児童書4400冊が届けられたそうです。

コンクールの応募数は、年を重ねるごとに増加し、第1回は80作品だったが、今回は過去最高の620作品が集った。その中から、入選者、奨励賞、社長賞、審査員長特別賞、金賞(低学年部門、中学年部門、高学年部門各ひとり)、そして大賞が選ばれた。

最後に「これからもコスモトピアはいろいろな試みをしていきたいと思えます」下向氏が語り「自立学習学会2015」を締めくくった。